南山一帶の各所に産する石炭を用ひ、邠州附近は其の南約二里餘、大峪河谷より出つる石炭（現今一日の採掘量約二千斤）を用ゆ。此の外省内石炭の産出地少なからざれは、優に住民の需用を充たすに足れりと云ふ。炭質は何れも無煙にして、土民は鞴にて燃焼せり。

地勢

沿道の地勢に就て約言すれば、潼關、長武間は、之を二つに大別すべし、即ち潼關、乾州間は所謂長安の大平原にして古來幾多の戰場と爲りし地、乾州、長武間は山地に屬せり。更に今少しく詳に云へば、潼關より西に去つて其南を望めば、巍峩たる秦嶺天に朝し、有名なる太華山は實に其の一肢にして、近く華州の南に聳へ、北に滔々たる渭河を湛へたり。此間地勢狹長、人烟稠密、楊柳相對し、雞犬の聲相聞ゆ。臨潼以西に至りては、秦嶺次第に南西に遠ざかりて、西安一帶の平野と爲り、咸陽、乾州間は臺地を成形するも、乾州以北は俄然山地と變じ、標高增加しつゝ長武に入る。蓋し咸陽以東渭河の左岸一帶は、頗る開濶にして、三原の沃野を成せり。

道路と河川

山地平野共に悉く開墾せらるゝも、水田極めて稀なり。又山地の斜面、階段狀を成すこと河南より甚し。道路は之を河南に比すれば凹道稍〻少く、即ち潼關、乾州